

芸術祭出展作品の制作による 子どもを対象とした造形教育と 地域貢献

建築都市工学部
住居・インテリア学科
准教授

諫見 泰彦



研究シーズの紹介

実践した「積み木であかりのワークショップ～童話を題材とした読書感想光～」は、光源にLED、反射材・遮蔽材に積み木を使い、「照明の良否は光源・反射材・遮蔽材のバランスによる」との知見を子どもたちが学ぶ、アート・サイエンスコミュニケーション活動です。成果はこれまで奥能登国際芸術祭、さいたま国際芸術祭、無人駅の芸術祭／大井川、科学技術振興機構サイエンスアゴラに出展しました。作品は国

立新美術館 国際公募展で特別賞（下図）、福岡アジア美術館 国際公募展で作家賞と来場者投票第1位賞を受賞する評価を得ました。また国際現代芸術祭 中之条ビエンナーレ 公式出展アーティスト採用、秋吉台国際芸術村 フェローシップ アーティスト採用などの機会を得るとともに、小学校や美術館等から造形教育の講師依頼を受け、地域貢献にも努めています。



積み木であかりの 造形教育実践技術

- アート・サイエンスコミュニケーション活動の指導者を育成できます。
- ワークショップの実践からあかりの良否を子どもたちが学習できます。
- 作品制作・出展活動により地域づくり・地域おこしを活性化できます。



期待される活用シーン

●子ども教育を学ぶ学生を対象にアート・サイエンスコミュニケーション活動の指導者を育成したい。



指導者を育成します。右は九州産業大学子ども教育学科での実践。日本産業技術教育学会長賞受賞。



●子どもたちのアート・サイエンスコミュニケーション活動としてのワークショップを実践したい。



ワークショップを計画し実践します。右は長門おもちゃ美術館での実践。日本建築学会優秀賞受賞。



その他の研究テーマ

- ・アート・サイエンスコミュニケーション活動（文化庁および福岡県の委託事業）
- ・駅舎と地域の計画と設計に関する教育実践（JR九州との共同教育実践研究）
- ・解体から学ぶ住居・インテリア学士力育成（ハウスメイトとの共同教育実践研究）